

繪本豐臣勲功記

二編

七





繪本豊臣勲功記二編七之卷

目錄

長岡之淵名奉救護覺慶

屬箕原元忠

新公方出江別帖朝倉家

屬朝倉系圖



繪本豊臣勲功記二編七之卷

彰公方在朝會家漸元服

屬明智出姓

濃羽河動産信長賜義昭

屬淺井系圖



繪本豊臣記勲功記二編卷之七

櫻澤堂山 編輯



長岡之測依奉救護覺慶屬其化危急
前門虎口之道也。後門狼牙小偶との信る世の中を頼むらん然やど小
一系院覺慶得業の所聖ハ長岡を教大補藤孝が忠義小よりて擒買の
難を脱出〜多ハ。江列矢湯小湯熱々るが京都の地少く好松永合戦
止るにあらざるや。覺慶又聖士の所奔蹤を尋ねる傳も懈り少く方僅ハ中
らう隱果を玉ふ小あら任分。所還信ま〜して密小近隣の武士達を指が
せしむ小應せ〜門々大館治教大補宗貞同伊豫守晴忠之測大和も慶秀
武田大膳も又義統沼田勅解由左衛尉清延系極を以て高成和田伊松も
惟政一色治教も補藤長上野中勢大補秀政同佐渡も延長阪河山城も

信賢同肥後守忠直二階堂諸公も秀大和治教少輔孝宗持島
 玄蕃光照先せんぬめ外波是の甲乙人東流の如く矢さとりどもいつ
 ても戦國小名人多き家幸く公若ふて。五百人との技持あつて
 自力く小既する由相應の國守を所頼とありて大將品をさるるべし。
 當主を六角兼頼入道の當國の大名といひ。故將軍の所代ふの管領
 代小補せらるる恩顧の由緒もこまあまき。禱のさん詞もあらしと大
 館治教大補宗貞と。所使者とて時をせざる小。佐々木家の内乱も
 穩あしむる。此系く如所ももまぬらせむ。斯ての果と評定ありて。明き
 永祿九年の春若狭の武田義統より。若別へ所動府の事と重し。あつて
 こまふて秋の初。所近侍僅や具したる。若狭へ所城ありたるが國使
 されば大義計策此地小おのりて。施ぐ。又他國へ所出のうと思へ

なる機会ありて。六角兼頼使者とあせむる。是れは南へ所動府ありと。言は
 奉りし。新公方家大悦し。あひ同ド来れ冬小い。若びは南へ還所
 あり。徳と所より兼頼の嫡子右衛門督義弼所近小来り。親音寺の城
 へ宿まぬらせ。義衛のことども尋常あらね。新公方殊小安達す。ぬく。六角
 父子と近むる。是れ義を奉りて。是れ利家を再び興へ。あらしと事。偏小佐と本
 の精力ありと。最頼母く命せらる。兼頼義弼謹んで。所奉り。あげたる。の
 運后と好松永保と。謀野あを玉とん事。神速小せん。と存む。まことこの
 こ四年内乱ありて。城中の諸士とら。小評定一被つ。まらむ。是れ小園く
 當年。此位。城中小滞。留ま。兼頼。作。早く。征。修。と。言
 状。に。残。小。も。と。わ。が。さ。此。歳。に。残。る。日。も。微。き。こ。を。修。と。然。ふ。と。て。愛。小
 所。越。来。ま。し。て。新。兼。頼。が。新。公。方。を。自。國。小。移。奉。り。し。本。心。を。尋。ぬ。小

這父子之好のこ人小結まこと呼容まあらせ不意を侍と計りしあり既當
 来も暮りて明も水禄十來小ぬ。兼復父子之好家より情まれ
 てありながら有係故將軍の沖連枝あり裁せん事も最嫌やと心も右左
 定まりて正月も稍過りて如月初旬ありしが情小と好家より使者さ
 らし此月の波所新義榮公將軍おらせさひも無さき所
 見の人も多き兼復父子と情せしむ。義弼管領小補とさ間事
 と執達せらるるよし。沖教書とて命わさる。兼復父子こそと拜有難
 まる。速ふらも信次。然らぬ余と新の方せ火急小計りまおらせんとそ事小の
 日夜をふとて千重万考ととのども長岡大館一と版の遠依の忠信
 近して疎忽小事を謀らまされが當此よの長史を將著作の城へ成らせ
 たり。虚を窺て裁せんはと密謀の方術を定め義弼於沖事

祇借一春小あり惟とも遠山寨の松柏のこ八指く愛玩風情も有り
 従来の所著散のこ義弼居城より著作の城へ成せらる。被下
 様花香薄くハ借ども隣家の菜花も何と。會せ終日花下小部酒
 を調へ軽危を危せ玉と小所感小も多りまおらせんと勧め阿くこま
 新公言不望ありと命せある。然らぬ明日沖成せと物一突おらせ速
 出と。新公言小ハ義弼が明史ののりし。得小も真ある。得小おがめこれ
 南都落。後より己来事苦のこ随身せ。長岡之淵和田の忠
 臣軍が情ども慰めをよとおがめ。こ夜を。まひるが誰とハ知
 らぬ。依前隔より今日の所遊ハ所賢。所由彰あらせらる。とと
 伊賀守惟政より諸勇とも共小進出史のこあらむ。何成るにこ日系より使者
 来て暫時兼領と閑談あり。事絶小速奔せ。緯あり。是ぞ極く義榮より

遣はるる使者のべたり。當新公方を謀りまゐらせ。自己の利を得ん。
 と今日の企ての事。はあらんと。吾人をして。長日と。測る心を。今日
 其作の所算こそ。漢の如。祖が。鴻門の會。小越く。小醫。弊を。唱。張。魯と
 あるとのふとも。誰と。ある。梅。大。會。あらんと。謂も。早らぬ。小。傷。より。和。田。伊。賀。也。惟
 政。案。こ。出。て。長。岡。深。く。憂。ひ。る。ひ。ど。其。作。の。所。算。小。所。事。あ。ら。ば。
 自。持。會。と。つ。ま。ら。ん。と。會。と。小。長。岡。大。小。後。び。足。下。後。力。を。合。せ。る。ぬ
 と。六。如。何。ある。神。岡。織。城。と。つ。ま。ら。ん。事。難。う。ら。ん。と。號。起。て。其
 作。の。所。算。の。門。々。を。數。ふる。に。長。岡。之。割。を。始。と。て。大。館。宗。貞。同。く
 晴。忠。と。野。秀。政。一。色。孫。長。男。我。宿。宗。和。田。惟。政。と。ま。ら
 の。男。と。依。付。後。せ。り。晒。へ。水。祿。十。年。之。月。廿。日。己。の。割。を。る。小。其。作。の。味。小
 海。津。を。玉。ひ。く。六。真。主。右。東。の。智。義。彌。城。外。へ。送。へ。と。ま。ら。ん。所。案。内

ち。一。糸。ら。せ。つ。本。丸。小。窓。こ。ま。つ。小。設。の。所。産。の。嚴。し。き。錦。備。の。帳。と。あ
 り。小。虫。齧。齧。の。板。細。筵。少。大。紋。の。縁。肥。や。小。林。泉。ふ。く。死。庭。前。の。海。津
 の。や。う。小。塵。も。あ。く。眼。小。遮。り。紅。縁。小。窓。ら。ら。ぬ。い。む。と。ら。も。り。相。て。大。師。會
 安。排。と。つ。ま。ら。ん。と。仔。細。小。親。て。あ。ま。ら。ん。七。種。の。所。算。子。い。七。宝。め。た。る。存。繪。法
 露。盤。小。堆。く。盛。り。と。掌。腦。一。肘。滿。く。る。小。安。と。り。聽。の。う。ま。律。能。截。翻。の。う
 け。り。串。貫。未。難。う。の。花。鞠。雜。子。の。ま。ぶ。一。餃。之。雞。七。醢。珍。と。り。亭。と。海。味
 河。伯。の。求。め。や。り。ん。山。味。の。神。仙。の。尋。ね。つ。ら。ん。と。類。を。る。の。品。く。と。四。条
 大。草。の。唐。丁。者。が。術。を。登。し。て。を。料。理。し。る。小。六。強。小。蓮。郭。の。百。番。精。も。こ。ま。ぶ。い
 勝。下。と。お。の。ま。ま。こ。り。種。と。あ。ま。ら。ん。の。飲。食。の。う。ま。性。毒。を。加。へ。ん。と。謀。も。と。も。彰
 公。方。家。の。近。侍。の。門。に。漸。毒。試。と。同。ひ。り。ま。ぶ。此。事。も。又。遂。と。て。別。小。計。儀。と
 め。ら。し。る。と。ん。此。と。の。相。伴。凡。と。酒。酣。あ。る。と。小。膝。を。口。論。と。あ。ま。ら。ん。と。は。虚

六角義弼
新公方と
箕作小
請



害
加
計



を寝ひいふもあてて殺せん。力量武術小勝き一のせ。三田十人推し出に庭
 の深中待候山陰小針事とてくめて躰をそけ外遠方那方の隅小名士
 數百と埋仕させ義弼一喝あしらん小願を響号して赤と謀合せ近士
 の個く一人も刺さど殺捕らんを準備せり。然ども長岡之圍候を瞬く陣も
 仲勢せを君はた右小同じ一は事せ做出すは間もあし。時小影公方の
 傍より竹丸とて児尾後突と起よりて深庭の櫻が下へあを侍るを義弼
 看るより声うけて。初にを渡あり新公方家の陣と出もあはれらば櫻が
 のことと咄めは魚小徘徊とるこそ罪いとふらたは速速返きて。可叱まは影公
 方所へこれ。意あは亭主の言親庭小放る花の文は尋常あらぬ風情
 あまはばあし別の瞬きあらん小とく侍らば奥もまらぬ。つぎの邊の花はあ
 が深からん小や誠。義弼とて口属とて詞小をあると命せり。小義弼も心安途て

諒し。竹丸今いらん。寧一と泉水の涯を切り樹生この茂蔭を窺ひ。
 こそより候山の上小登り。四方を鳥と視流を小如括り力たて甲枝の深
 の際小露頭とまき。竹丸さてと心小秘し。素法亭小庵小とてうて新義小
 朝ひ重とまら。つぐも亭主の馳走厚く杯花名本お初にが中小。終て
 殊あつたの響の南西小小く目久候。候山の濃陰こそ奥あること。て候
 つぱ上様も被下へ沖座を移し。まらまらと。とりを小属と義弼もよれやど
 身と一舟小然が候うの候山へ沖遊小園て設く。あまは沖心小も傳ひまじま。ん
 軟居ながら見とる。義弼も一は沖缺と勅めん小登させ玉と。謂つも沖先
 小起て庭前へあし。を高えし。沖樋小あらせ玉と。指小て密と長岡せめし。
 よせい。義弼。願量の兼備とる小。も流の陰のまらじ。城中都て予
 と殺つ。拒案と。つる。白鶴あり。一。路もあらん。連も死ぬべ

沖橋
 義弼

其自身あるを懸念する事做出して違ふべきと云ふも是利家の名取
 此其方僅にや又運小備と云ふ外思慮多しと思ふ断てしむをて其
 長岡藤孝所心を勵まし小田原を視巡らし背門の條外絶崖あり
 く險なるに要法の侍も見え之を惟運せ夫小備せむ以て絶崖より
 適きさむむべし。福と和回伊賀者と謀合を成し今地は伊賀者
 惟改被堀外へ所迎小田原出作へ。此後より所出あるは且所を所堀敷
 の肩門へち掛寄せたるをて。願をまは他目小田原を所堀小田原と
 侍小款通下り時小田原小田原も離る敷走まらんと云状を所堀小田原と
 背門の方へちまわらせ自身は亭座小田原送る公方頼花の下へ後所は
 公方準備とて京へ物義弼と云え信山の傍小田原を設け種々の具を
 めち送り所出おそしと後より後考るも欺るべしと義弼討ひ公方小

其例の如く所堀小田原今も小田原に刻伺ひ来ん小田原と亭座へ送るをて
 して之を測小田原は。背門へ走通り。此後より所堀小田原を設け種々の具を
 と頼小田原を但運つて小田原を伊賀者へ新公方家と背小田原と員
 せむらせ。頼が像く小田原の西小田原を走りて遠小田原を心算送り
 湯く小田原を雨すも絶難多し此を道得とて遠小田原を心算送り
 かる免む。虎口は道得とてなむこと。所堀小田原を走りて遠小田原を心算送り
 瑞相あり候て必所本意を違ふを至ふ小田原を心算送り。と作起つ偏守小
 湖水を當て零行をぬりて
 新公方出江列恬朝倉家属朝倉系圖
 漢者いづんを龍と稱し得るや。然れども其他の城中より義弼心小
 隊らるる。信山陰小田原出あらば龍中の者くと信小喜比侍どもを



豊田記二編巻之七

和田伊賀守

新公方と救

せうのうせう

箕作の城は

虎口と道

出る

七

河津治守。いづれもいしと使と奉らせ。河植のうらむを伺はる。小使慌て
 走返り。河植殿の扇門小折名を掛さるる。新公方家の中も
 まつど長岡之園も相見つどと告る。小義弼うち發き。彦輔小原
 て訊ま。兎尾後行丸着てい。公方中今し。公方小酌面
 紀多ひぬと。親なる香山(還河ありし)と所より。大小憤思。益小やねと
 勞つ。律よと。奉を指り。悔れど。東西のうち小親善寺山より
 使者走來。新公方お被城申す。還河ありし。若知らるるに
 まま。惘と。逆をせり。朝づき。心感ふ。岳と。入。發。發。發。
 と。奉。せ。一。老。入。案。と。出。て。義。弼。が。被。せ。ひ。久。潤。と。流。と。り。や。
 々。々。々。遠。程。より。心。想。ふ。今。天。と。君。が。奉。言。の。如。く。新。公。方。家。を
 托。し。ま。お。ら。せ。と。好。の。約。小。報。ひ。ん。と。謀。り。し。事。も。と。や。漏。れ。公。方。も。も。邊。死

だ。多。ひ。一。律。い。ま。ま。使。事。の。い。あ。ぶ。り。を。是。利。將。軍。河。津。の。靈。の。道。守。れ。と。ふ
 不。あ。らん。然。し。と。ま。ま。官。易。殿。と。ま。つ。ら。人。律。決。と。傳。ひ。り。て。ま。ま。并。新
 公。方。家。當。國。入。河。津。と。怒。歎。還。治。る。と。ま。つ。て。將。軍。家。の。幕。府。を
 再。與。せ。ん。と。依。り。本。の。家。を。恃。ま。せ。と。あ。ら。う。矢。執。牙。の。名。を。奉。ら。ら。む。と。怒
 り。と。主。人。の。河。心。小。天。魔。の。魅。う。し。小。や。こ。ま。と。謀。り。ま。あ。ら。う。と。事。武。勇。の
 家。に。服。種。と。り。ふ。べ。當。家。小。折。く。ハ。前。將。軍。光。澤。院。殿。の。恩。澤。ふ。く。美
 種。入。道。と。て。管。領。付。と。ま。と。ま。ら。の。具。か。と。お。や。め。さ。前。將。軍。の。河。津。小
 之。好。と。謀。り。新。公。方。家。を。補。佐。し。ま。あ。ら。う。と。告。り。と。公。方。小。折。死
 逆。ひ。報。達。せ。道。の。こ。好。小。與。力。新。公。法。と。と。あ。と。人。倫。を。害。ひ
 武。門。を。汚。せ。り。先。祖。源。三。秀。義。より。十。有。余。代。の。子。孫。と。て。一。方。も。謀。反
 の。名。と。ら。ら。む。幸。あ。ら。う。於。新。公。方。家。より。遠。達。依。り。本。家。を。頼。ま。し。ハ。一。不

先祖の靈の導かざる可あらざらん。登く逆賊の好敵小徳方の心を違雲
 せらまは忠心を我れと潔くして勤公の家小將佐景一。其名を末世小
 徳にたると理責て練むる小徳。義河大舟船にて面目おげ小言自もろく。
 遂小害心を止めりり。又の國に新公方家の長岡。之洲和田のこ士小虎
 口は徳を救ふべき至ひ湖を當て零行さるるが頃。浪経の同小水鼓所へ
 て右平小湖水の逆ぶが如く。深くこして露露と流す舟のありまると右見
 た見と行儀小義其調。渚のうら深倦や。急捨。警戸小舟の見へる
 と又の駈と君長四個雀躍り。こ系福を六快。げふも帆蓆とまとわ。中より
 一個の武士抽と起出四個を見へる誰か。こらせ。こらせ。こらせ。同奉と和田惟政の
 流す舟と流儀とあらの随く告るる由へ。船は侍と頼小来伏。小居此小待奉。流
 稍之時の棹と揮とて失せんと。又余の萬と把整とて草根小用。こ流解とり。

一張二張揮とて小い。江と漕放見六七日と流出。が風を順あり。心帆あり
 よとの小應も早舟の横演をへ来つる。浪へもは善く成とて。又六月東
 山小腫。こ。湖上の夜果と眺る。救氣と合む。色は花小右信勝。こ。徳
 とぞと紹りひ。あ。波のう縁く。噴。又。ち。れ。割。額。小。之。尾。が。崎。こ。つ。れ。玉。こ。此。地。の
 朽木宮内大捕魚綱。依々来。去。舟。た。是。則。定。綱。の。後。風。多。の。采。地。多。う。ま。は。長。岡。之。洲
 を使。こ。こ。特。ま。せ。た。多。ひ。ら。う。小。う。り。嫡。子。江。内。守。元。綱。流。布。が。民。於。流。綱。と。有。へ。ら。侍。と。出。し。て。河。途
 た。て。ま。つ。り。跡。意。か。く。綱。意。應。ま。お。ら。と。ま。こ。も。此。朽。木。宮。の。地。形。い。は。官。乃。ま。は。多。勢
 の。集。會。偶。ひ。ご。し。と。若。使。の。武。田。義。統。と。り。り。越。前。の。杉。倉。を。河。經。と。あ。る。意
 朝倉と武田と。ひ。と。う。こ。う。あ。ら。ぬ。内。縁。此。武。田。義。統。の。後。風。多。う。初。の。元。次。と。り。ふ。義。統。の。室。ハ。前。若。平
 の。室。ハ。武。田。義。統。の。祖。父。武。田。元。光。の。妹。也。あ。ま。は。義。統。た。右。ま。く。諾。ひ。ま。ひ。ら。せ。同。年。四。月。の
 下。瀬。若。使。の。國。へ。河。動。座。あり。此。少。を。將。依。の。諸。産。を。招。ぐ。ま。義。統。と。り。り。朝



豊臣記 二編 卷之七



新公方
 死場と出
 琵琶湖の
 活水と葦
 舟

豊臣記 二編 卷之七

倉へ所頼ありせらる。并も越前國の朝倉とりの人王と十七代孝徳天皇
 第二の皇子有間王の皇子孝基の王親で日下部の姓を賜ふ。但馬の國小
 日向より海をその子孫として武士とあきしめ但別朝東郡於赤松の地類
 ありしむ武門の名譽累代して朝倉孫右衛門尉廣宗元弘の頃を盡し
 しが是利孝氏公丹羽篠村小義忠と奉さるる多し。駒廣景但馬よりとを
 系り。足利尾張守高經新波武衛の先祖にて越前守護殿也の隊小加らる。廣宗軍忠振群あり
 とて之を經を誅く賞あり。自家の執事小補し。越前のは羽羽思
 丸の城をとりしむ是より數代相傳して文正年中新波武衛尉家
 督と争ふ事ありて臣家も分るる。合戦とて比の朝倉ハ弾正左衛門
 尉敏宗とて武勇絶倫の猛將あり。越前國を以て攻めしむ。隣國小
 奮ひり。應仁大亂の晦ありて細川勝元の陣小加らる。數代軍功

と頼りけり。兼山殿所賞長ありて越前守護とて遠祖秘し所
 教書より陪臣の列と稱く大名の座ありし。敏宗の仁義と
 譽ふ。治國法政事小非道あり。敏宗生涯の智是まると入道ありて
 英林と号し。且赤大野郡一系谷小城と築り。此よりて赤城とす。
 文明十三年七月廿二日終小館舎を捐らる。其子孫右衛門尉氏景
 家督たりしが六年を經て文明十八年七月二日十八歳にて早世す。氏景の
 嫡子彈正左衛門貞景十四歳小く家督と相傳。然る小彈正貞景の文武満
 足の良將あり。將軍一忠功をたぐふ。公方家此よりて赤相傳。最小く
 是らま家流と奉り。其の春秋と經く。永正九年二月廿五日鷹野の
 不意小卒をせり。其子孝景十九歳小く家督たり。國政を多叙す。赤浦
 貞景の善長所教書 万端此を執行し。教實郡合志湯の城小住せり。又孝景系

若狭の領主武田大膳も又元光の妹を迎へて妻とす。然れども男子を産ま
ず。引依末氏綱の末子とて養ふと。孫次郎信重と号せり。夫
元十七年三月廿七日孝系行年五十六歳一系宮小卒去せり。孝系生
涯佛院と号傳し。寺院ありて建るなり。叡山小多く佛宇を造り。其
の信系十六歳朝倉の家と相續するに時の管領細川晴元嫁を遣へ
り。是れ小娘。光源院殿晴元の所一字を賜り。左衛門督義家と号む。然
とゆ。是も性質吉。父實父の似もや。武道小味く。利根龍心派
の流あり。名家の流あり。武勇の名家多し。其れ也。隆道の
龍。其れ也。

新公方左朝倉家新元服属別智出姓

有徳は若狭の十一年万苦とて。是れ也。武勇の名家多し。其れ也。隆道の
龍。其れ也。

少い。若狭。苦勞。新元服。別智出姓。武勇の名家多し。其れ也。隆道の
龍。其れ也。

て奔走せり。彰公方家出所時も速く。義景は河内を率らんと。其時
懐微は。一系谷へ所使者を遣はり。遠義を過ぐ。今も。右左延引及
び。その。謂と仔細。親。小朝倉家田原代の。能。下。塔。江。七。并。景。忠。の。者
あり。利仁將軍の後亂。して。系谷の。一。族。あり。坂。井。郡。塔。江。本。庄。の。領。主。と。して。
代々。武。勇。の。名。を。流。し。て。然。る。小。と。率。七。并。景。忠。を。實。の。終。を。身。に。受。く。
義。景。と。密。に。懇。を。本。庄。の。城。小。指。籠。り。合。戦。を。交。わ。り。し。も。景。忠。と。結。ぶ。
を。り。て。遂。に。敵。と。く。して。敵。軍。を。道。を。加。賀。の。國。へ。墜。入。行。ぬ。當。東。加。高
の。本。願。寺。領。小。と。門。徒。の。一。族。諸。小。率。り。合。戦。の。最。中。あ。ま。り。塔。江。景。忠。が。ま
た。つ。と。率。ひ。小。と。を。率。用。大。將。と。す。る。小。と。塔。江。七。并。得。つ。と。
後。び。一。族。輩。を。引。率。と。敵。軍。一。部。入。せん。と。義。景。と。結。ぶ。防。人。小
屋。出。陣。し。る。も。あ。り。新。公。方。家。の。河。内。將。軍。も。小。と。を。延。引。し。る。と

あり。新公の果つれば時も。知。ま。ね。ば。長。岡。密。小。公。方。一。軍。と。加。賀。城。前。を。和。強
せ。し。む。然。も。率。と。を。冬。中。と。國。の。倒。は。深。雪。也。進。退。も。小。自。由。な。ら。ば。
系。都。所。率。向。の。事。ハ。明。率。小。率。を。率。ら。し。同。率。十。月。廿。日。金。子。持。と。河。内。將。軍
つ。て。一。系。谷。へ。所。移。あり。安。養。寺。と。り。て。河。内。將。軍。と。目。出。と。く。春。と。迎。へ
た。多。ひ。永。祿。十。一。年。と。あり。ぬ。ま。も。彌。生。あ。ら。わ。ば。雪。消。る。ま。だ。公。方。小。の。行。と
び。玉。ひ。日。と。養。て。を。お。も。し。る。が。いつ。と。二。月。の。天。不。の。り。け。り。或。時。義。景。安。養
寺。小。祇。候。し。護。で。言。状。し。る。も。送。居。退。伏。の。大。將。軍。が。河。内。將。軍。と。り。て。然。り
登。ら。ら。む。古。目。を。河。内。將。軍。と。あ。ら。わ。れ。河。内。將。軍。を。定。め。さ。せ。ま。ふ。と。す。律。也。と
勅。め。ま。あ。ら。せ。ら。る。小。と。り。遠。義。の。も。有。加。へ。使。り。行。ひ。り。の。り。と。と。先
義。景。と。管。領。代。小。准。せ。ら。し。河。内。將。軍。の。役。勤。む。ま。ね。命。出。さ。せ。ら。る。小
と。り。義。景。有。ら。む。河。内。將。軍。と。り。今。下。四。月。廿。日。言。日。吉。時。の。ま。ま。と。新。公。方



覺慶
 朝倉家
 據立
 義昭と
 号らせ
 あふ

朝倉家
 義昭と
 号らせ
 あふ

家けの義ぎ累るいが至いた形かたち小こ節せつ侍さむらいありまわらせ。規き式しきかごそ小こ執しやく智ち以い大だい禮らいの
 事こと前まへ尾び全ぜんく。涕なみだ滂ほうあふ。收納しゆくせらる。沖おき先せん代だいの例れい小こ信しんせ。義ぎ昭しやくと号なづけ
 玉たまふ。義ぎ累るいより國くに光みつの沖おき馬まらび。小こ金かね銀ぎん袋づかめの鞍くら澄あきせ
 斬きぐて。曾そ賀が。春はると。君きみ臣おみの歡よろこ声こゑ一いつ。系けい谷や小こ彌や滿まんせり。然しかども。義ぎ昭しやく君きみ小
 かうせらまて。い。遠とほ等ら計けい事じせ。悦よろこび。あ。ま。む。只ただ管くだ見み君きみ母はは君きみの仇あだらる。こ
 好この松まつ永なが也なり。征せい伐はつの事ことの。と。心こゝろ中ちゆうお。か。が。け。め。さ。き。除よる。か。て。お。は。し。る
 朝あさ倉くら家けの。新あらた矢やお。し。お。て。明あ智ち十じゆ衛ゑ光みつ秀しゆと。し。る。あり。其その原はら姓せいと。号なづけ
 小こ濃のう列れつ明めい智ちの城しろ主ぬし下した野の守しゆ光みつ綱つなが。嫡ちやく子しお。て。土つち波なみより。出いる。氏うぢ族ぞくあり。并そも
 此こゝ土つち波なみと。し。る。家けの。法はふ和わ天てん皇かう。法はふ和わ天てん皇かう。後ご胤いん核かく深しん守しゆ賴らい光みつより。七しち代だい伊い賀が光みつ基き
 の一いつ子し。土つち波なみ英えい濃のう守しゆ光みつ衛ゑ文ぶん治ち系けい中ちゆう濃のう列れつの守しゆ護ご職しやくと。し。る。又またより。五ご代だい土つち波なみ

伯ちち老らう守しゆ賴らい清せい小こ田でん人にんの男おとこ子こあり。し。二ふた男おとこ下した野の守しゆ賴らい兼かね系けい東とう火か濃のう明めい智ち城しろ
 小こ居い住すませ。く。是こゝと。し。て。明あ智ちと。稱なづけ。と。賴らい兼かね八はち代だいの孫まご下した野の守しゆ賴らい兼かね系けい東とう火か濃のう明めい智ち城しろの一いつ子しと
 光みつ秀しゆと。し。然しかども。小こ光みつ綱つな早はや世よと。し。光みつ秀しゆ今いま猶なほ幼こ推おしと。し。六む叔しやく父ふ之の厚こう助すけ光みつ康かう
 先せん個こ家け督とくと。稱なづけ。明あ智ち小こ信しんと。并そも。此こゝ光みつ秀しゆ幼こ少せうより。也なり。智ち量りやう万まん人にん小こ勝しやうと。
 英雄えいゆうの風かぜあり。と。りて。光みつ康かうも。未ま賴らい母ははと。か。り。ひ。く。賴らい兼かね家け督とくと。稱なづけ。と。し。る。也なり。
 と。賴らい兼かね家け督とくと。稱なづけ。と。し。然しかども。光みつ秀しゆ武ぶ術じゆつと。練れん兵へい法はふと。宅たく至いたん。と。し。る。
 家け督とくと。受うけ。心こゝろ中ちゆうの望ぼう滿まん足そくと。し。る。緯ゐり。と。し。と。堅かく。辞ことばと。し。日ひ夜やと。系けい中ちゆう軍ぐん
 法はふ和わ天てん皇かう。法はふ和わ天てん皇かう。後ご胤いん核かく深しん守しゆ賴らい光みつより。七しち代だい伊い賀が光みつ基き
 是こゝと。熱あつ練れんせんと。野のと。り。く。山やまと。り。く。致ち巡じゆんと。し。る。智ち量りやう万まん人にん小こ勝しやうと。
 密ひそ藏かくも。外そとに。ぬ。や。と。の。柳やなぎ小こ五ごと。し。る。然しかども。弘こう治ち二ふた年ねんの。四よ月げつ。秋あき藤ふじ道みちと。し。る。
 子こ義ぎ純じゆん小こ段だんと。し。る。后ご濃のう列れつ一いつ圓えん義ぎ純じゆん小こ段だんと。し。る。又またより。五ご代だい土つち波なみと。し。る。



豊後巴三編卷之七



豊後巴三編卷之七

道この好々業を明智小左衛門が籠城し居る義就怒てこそと攻め小光康は
 防ぐといふも敵大軍小左衛門と接起る小左衛門持てうへと戦死の覚悟あり先秀
 かよび先康の長男孫左衛門光春二男先忠遠く二人は道さたもと後の貞孫教
 へては遠圍せしむと勅むと更小所用ひを借小戦死するはふの道
 る氣色のあは小光康初てのあはれと武の怒り或はとて漸く小明智の城を
 落しし。於方斯くも先秀依の城中で遁出京都の知己を頼力として
 姑く彼小左衛門居るが妻從才依を援助する小左衛門の才は活射して
 く。然るべし大名家小左衛門とて三身せんとおり。こも。後世に傳へ國
 と通應せんもいふあはれと漢賊天龍寺小親依あまは後世に之と
 のと置書も京於小止ぬかんと。後日の朝を謂ひける小左衛門とて
 終りて強もの弱小左衛門も女一回良人小左衛門を離さざるは道とを

あまは妻も共小伴ひてよ。又と羈旅小圍めて居るが侍の負あはれを
 山河の風雨小親まも妻もとも小頼ふこそ操といふあはれとていづくも
 伴てまへと幾行をぞ探詢く小光秀もを理小座。然る同道せらるる
 弘治二年九月下旬黄梅をるると一奇小都の空を辞去つ。まが戦後
 諸小左衛門と上杉景虎が武道を競そより奥列の會津小左衛門も妻
 名盛氏が弓矢を操り。宮城郡小左衛門。伊達輝宗。南無小左衛門の系
 風を考へ或は下野の守都宮結城喜連川を巡る。常陸の依行
 小總の子葉安房小左衛門見かんと。城下をを徘徊あり。家々の風儀
 と見聞し。然して相列へち渡り。北条氏康の政道は何ひ箱根を越
 て強あはる。今川義元の勇氣を量り。便船を泊り伊勢路小左衛門。小島
 の強弱を扱ふ。別列の地あはれ。南法井泉列小左衛門。こはの奢後目播小左



豊田記二巻之七



毛判元就が
徹眼遠く
明智光秀が
叛相と
観破す

豊田記二巻之七

十八

別家跡法を勅得し。同國室の津小連日還留せし。方僅に窮迫
 説ふはまじ。碎るる儀も亦あらざむ。時使しるまじ。進退得べく。
 次泊の價を賤ふべき。緯さるらぬその期小即りて。賢あるる光秀の妻
 貌く髪を髪より。憾氣もみく。截掃て。加毛子高ふ居小。強而て。あまの日の
 種小代。備常美作もり。過て。雲列危子の色を繼え。防列小列
 大内代を住居せし。山口の城を一覽し。肝を傾せり。こまをあまのこひ
 感稱しつ。形方遠方と因匝と機會うら。番公輩こそ。目見ぬ。解結
 こそ。こま評官志。山口の制令へ。誓ま行遠。响幸よく。毛利公の長尾
 権能守守を居せし。光秀を居く。鞠問する小。その智恵辯舌九る
 らぬ。殆是と感佩し。遠人となりて。扶持する胸が。あまのこま。大内用ひ。こま
 と推挙する。流列へ。光秀を送り遣し。る小。元就こそ。呼せし。一見

光秀の妻
 伊藤の妻
 伊藤の妻
 伊藤の妻

せらまて。肩を繋ぎ。遠者頂骨突出して。こま。相甚よる。くらむ。多の。ま小
 宗とあまのこ。新小抱く。扶持する。緯の思ひもよらむ。と。近き小。余を
 時服を浪と。脱らまは。傾かまを。還くべし。と。前さる。これら。小。す。桂ハ
 大小氣の毒あがら。別小。黄金と。敵く。流列の地と。出さる。る。ゆ。こま
 より。豊後小。渡海を。大友家の流儀と。目学出列小。く。長常。我部
 の當流と。く。所保ち。紀列小。流く。る。野。然世。有野小。入。南山。寺。居
 伊賀小。保山。伊勢の。清神。迎は。越之。京都小。素つ。ま。水。源。河。東。平。の
 妻。流。末。の。預て。漢。成の。知。己。小。訪。ひ。田。原。日。此。寺。小。深。尚。一。の。持。附。は。是。後。使
 せ。伴。ひ。持。前。致。賀。小。越。列。が。高。船。小。便。宜。と。得。て。板。小。郡。長。清。村。あ。る
 稱。念。寺。小。保。攝。も。お。れ。其。傍。を。あ。る。草。舎。を。借。て。こ。ま。小。住。ひ。切。き。軍
 の。置。師。と。四。個。が。は。と。ぶ。ふ。粉。を。の。こ。も。窮。を。小。起。休。り。る。然。れ。ど。小。水。源

五幸の禮加列本願寺門徒の輩落び一揆の強動とて越前領と振る事急
 かりしと報ふより朝倉左衛門督義景も不怒り一族ありける朝倉土佐守
 景行と大将とて数千の兵士と當向らる。系江数千の兵士と率ひ並地不
 加列(谷向)大聖寺敷地(近江)月津津津津(近江)の邊に陣と布く。
 遠响(明)習十(衛)軍見物とめ彼不(越)不(越)朝倉(越)勢の陣の不(越)不(越)時
 解まて觀ふ。ち小日(日)ハ(日)莫(日)成(日)入(日)沖(日)幸(日)原(日)の東(日)小(日)あ(日)る(日)一(日)條(日)の(日)赤(日)氣
 沖より南の方へ傾流るる也(光秀)這氣と曉は(小)ま(さ)しく一揆の門徒輩
 朝倉の陣中へ不意と臨んを殺るるらん然ども越前(朝倉)の陣中小(是)と知
 る輩ありし小(也)そは準備も多るる曉(漢)あり。馬も引(之)の誘(め)ねど朝
 倉(ハ)之(將)佐(と)あり(バ)敗(軍)とせんも(氣)の毒(あり)とて(生)蓮(導)近(江)守(が)陣
 小(河)中(に)懸(氣)の(事)と(精)しく(語)り(夜)段(の)小(心)あり(と)て(身)密(と)ま(る)小(近)江(守)

敵(ハ)之(思)へ(も)も(づ)大(將)小(光)秀(の)意(せ)一(條)と(詳)小(部)と(土)佐(守)實(も)と
 かり(德)軍(中)へ(洵)也(一)準備(と)て(を)待(免)る(小)果(と)門(徒)の(一)揆(軍)數
 百人(と)隊(部)多(し)情(地)不(推)進(と)越(前)方(小)願(と)し(と)準備(し)て
 待(こ)と(力)も(バ)強(き)も(や)ら(ず)擊(て)發(此)の(隅)崖(彼)の(切)又(小)追(詰)お(ひ)つ(免
 斬(起)る(と)光(秀)靈(時)見(物)せ(し)が(臨)み(て)素(直)に(一)揆(の)邊(り)か(ら)も
 ち(ら)ず(小)自(己)と(忘)れ(て)去(祭)強(軍)の(名)統(と)借(交)り(統)次(と)小(光)秀
 仆(ら)ち(候)十四(五)町(も)退(甚)甚(一)揆(の)大(將)重(板)伯(耆)也(近)江(守)と(馳
 と(見)て(得)る(と)火(蓋)と(さ)り(て)敵(を)懸(と)と(一)揆(板)分(捕)り(十)分(小
 馬(より)權(と)臨(し)り(大)將(と)も(さ)り(と)あ(ら)ん(右)願(左)側(小)の(陣)を(く
 領(地)と(當)て(敗)走(と)朝(倉)勢(の)か(り)の(兵)不(退)段(々)分(捕)り(十)分(小
 斬(提)し(る)が(勝)固(つ)と(て)號(號)び(軍)を(纏)めて(降)陣(を)彼(光)秀(が)智(勇

のいどむる人義景新多む六 対面をべしと使出その人物を執り見
 る小栗原景季常あらむるも素性を執りて抱へ五百貫を賜へ
 る光秀原景實も義景の心小恒ひを侍小恒准一軍論を禪せ
 巧小一りもびりし一出身加増して五千貫の禄を奉る新公方家當
 國(中)勅命をばり主人義景の名代とて金が清きを来りしとせし小
 新公方家より新公の體意あらせりし小時こそ得てこそ忠志一
 ろうが時を新公衛ふめさむるにじ新公等くおぼさむる然る小新公
 方家一系を(後)新公ありて安養寺に在りて光秀日毎小恒ひをあらせ
 心中小恒ひを乃子朝倉の家中小恒ひとて五千貫の禄を得ても新公
 輩のさしとて舊家の老臣小恒ひをらりて近來速退小恒ひをらり
 今此君小恒ひとて他日上洛あらう响供奉せ六將軍旗下の士とあり

先祖の家名も惣貞一得らるるにせ怯弱の義景小恒ひをらり新公
 方家と勤まらるる尾張の智將信長と行換らるると思ふ小恒ひを
 侍の人なき機会を顧義景昭若へ言出らるる小恒ひは信長の軀をのりて
 斯く然らるる心も多々惟得とも當國小恒ひをらり新本意と
 遂にせ至らん律思ひもよらぬ事小恒ひを不謂らるる人義景怯弱を
 こと近頃絶倫の舉止ありた君小恒ひを知らるる如く今來六月廿五日
 義景景最愛の男小恒ひを阿若丸に死せしより極意とてくぞ歎悲し
 國宗は政事も親を兒女同様の心中ありて勿く義景を憑授せよとて
 けりて義景を果し手ん如く他國の良將とて新公をあらせよとて
 小恒ひは新公の身命を塵土に抛ち新上洛の御魁つらまらんと謂
 せ巧小恒ひは新公の義昭昭若一也とて汝の諸國を遍歴しつらまら

風土の好醜武士の強弱種々を鑑つらん申小能く尾濃小なる鐵田上
 總女とのつたのいふる答ごとと河野ある先秀樓他と譽を拍入つる
 河明素う其倍若とのつ人の實小近代の英雄あり又張運長と好せ
 殿て君を京都へ還し奉る信長外あり候はし佳く渠を河野
 あきと懐微て賞さふより義昭若も表悦ましく明察が詞は是利家
 再其をわん神物あらん予方僅心を決しう縁故の信長先達と密
 小使者をさし散て速く濃列へ移るべきよし要さるゝとも今義昭を
 辭し去るべき方便を知らせ先秀がわんを針りひり守と命小十萬兩
 謹んて君に一應義昭へ河野信長をあらせり然と決着のさき
 鐵田と頼生を多中う命出さるた自をさと要さふ公方同心
 多し上野中務大輔秀政長岡長部大輔藤孝友人と濃列へ

遣さる偏小頼生を多中う命出さるた自をさと要さふ公方同心
 受とせまる極河野答とをわんたうらふ
 濃列河野信長義昭 属濃井系圖
 和意ありととも辨小系史如くは後基ありととも時と後小は志と然河小
 上野長岡の西人の信長が河野小河野諾りやとをまるじと大小敵は初命
 の心中との思の相違つと能の雲を得る心地速小を返り信長の口
 州と茂も言はせし義昭若小の逃起をうとわんや。河野義昭若小
 使者をつまし命出さる河野此系来就之の信長美忠の忠義流若の
 至りあり然る小前日一子河野九早世の事然秋の心中察しゆせりこは小能く
 心を系都進歩の儀遠多せり然る小美濃の鐵田より命出さる極あき
 を日濃列へ移るの詞あり然と義昭も命出さる忠節小せり

今度當國就退座忠義神妙思會惟向後身上
不可見教猶從又藏局可速者也

今度當國就退座忠義神妙思會惟向後身上
不可見教猶從又藏局可速者也

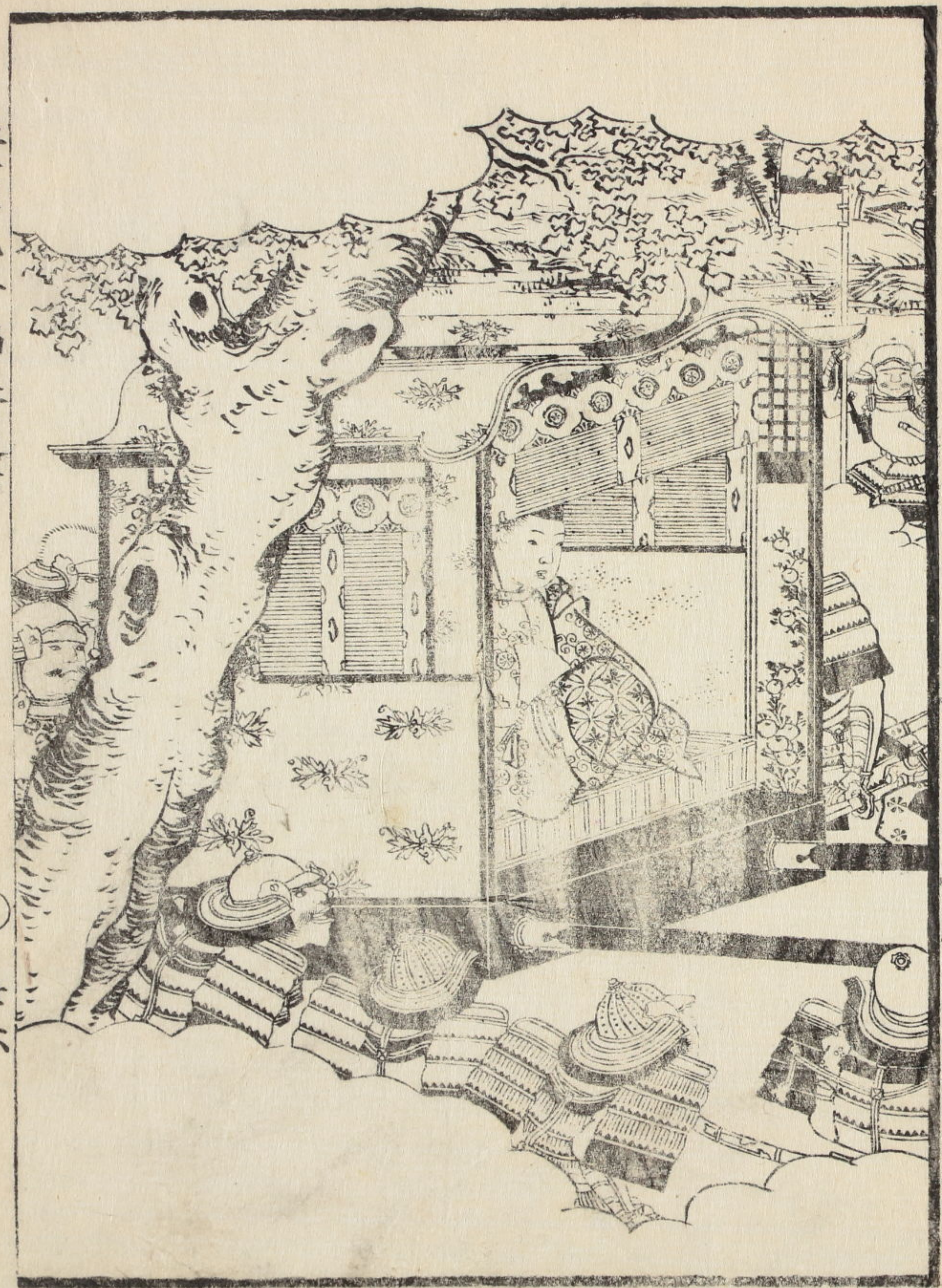
七月四日 漸到

朝倉友忠智之

新のごとく命出さる。漸退座をせらる。より。義軍も多し。漸見退の儀を
こゝに中務が補業順からび。仙波が右馬。西人小二千余人とさ。一添。路次を
發。法一た。ま。り。七月十六日。一。系。谷。安。養。寺。を。漸。禱。あ。ら。せ。ら。る。是。供。奉。す。
わ。ら。ま。る。門。々。の。長。園。之。淵。上。野。多。し。一。系。谷。より。福。井。へ。り。府。中。新。波。の。里。

此所より。漸禱。禱。之。儀。進。ま。る。多。し。漸。進。と。て。不。被。行。内。身。
菅。谷。九。右。衛。門。内。藤。勝。少。二。千。余。騎。小。て。急。向。臨。次。の。警。急。を。り。急。
ら。ま。る。小。谷。小。之。日。漸。信。忠。あ。ら。せ。ら。る。此。地。を。漸。禱。あ。ら。せ。ら。る。長。谷。も。漸。進。す。
漸。借。り。春。照。野。を。徐。く。く。と。せ。孫。川。へ。出。ら。る。駒。崎。早。々。村。井。長。門。も。
島。田。和。之。助。川。ま。を。漸。進。し。を。ま。り。し。は。淺。井。長。政。へ。こ。ま。小。く。漸。進。す。
今。度。當。國。就。退。座。忠。義。神。妙。思。會。惟。向。後。身。上。
不。可。見。教。猶。從。又。藏。局。可。速。者。也。
此。所。より。漸。禱。禱。之。儀。進。ま。る。多。し。漸。進。と。て。不。被。行。内。身。
菅。谷。九。右。衛。門。内。藤。勝。少。二。千。余。騎。小。て。急。向。臨。次。の。警。急。を。り。急。
ら。ま。る。小。谷。小。之。日。漸。信。忠。あ。ら。せ。ら。る。此。地。を。漸。禱。あ。ら。せ。ら。る。長。谷。も。漸。進。す。
漸。借。り。春。照。野。を。徐。く。く。と。せ。孫。川。へ。出。ら。る。駒。崎。早。々。村。井。長。門。も。
島。田。和。之。助。川。ま。を。漸。進。し。を。ま。り。し。は。淺。井。長。政。へ。こ。ま。小。く。漸。進。す。

義昭公
越前へ出
濃州へ
御動座
中
侍



八

八

更々伺惟して美味珍饈の料理を賜ふ。翌日終夜の通夜二万余人の勢
 固まりて嚴重小守護し奉りし。跡あらざる。其の體を朝倉宗三郎に
 雲泥の多し。是れ小依の長岡をめぐり、駿河も亦も勢を一日、河津島も亦も
 不小同廿七日、織田上総公、彦冠公、抱藏、忠、権、徳、ひ、正、寺、へ、奉、上、し、
 細く河津島の式を行なふ。國綱の所を力あらび、小批、花、山、河、具、足、沈、香、
 渡、難、金、船、を、山、は、傳、く、小、款、と、あり、長、岡、へ、つ、も、さ、さ、さ、く、は、野、野、守、り、
 小、う、つ、づ、も、織、田、の、大、意、を、感、ず、君、は、左、右、小、依、惟、せ、り、遠、响、公、方、命、を、奉、り、
 信、長、の、芳、志、を、奉、満、足、の、事、あり、勢、上、上、も、達、小、上、治、の、馳、走、を、怖、む、あり、
 と、護、意、小、信、長、謹、ん、で、所、請、り、う、ま、わ、ら、さ、る、中、う、小、信、長、將、軍、は、河、津、島、に、
 被、つ、て、ま、り、し、緋、の、山、海、も、も、く、比、と、る、小、信、長、と、然、る、河、津、島、に、決、して、泉、下、に、
 河、津、島、を、ま、ら、し、候、も、ん、信、長、を、交、へ、新、公、方、の、河、津、島、を、く、候、信、長、を、奉、意、

小信ひ、あらざる。存奉り、かく河津島をあらさる。へ候の河津島、河津島、つ、ま、り、
 小信、不、も、さ、さ、さ、く、不、日、小、信、奉、し、て、ま、り、う、怨、敵、之、好、侮、を、誅、戮、し、て、京、都、へ、還、
 河、津、島、を、ま、ら、さ、る、存、奉、り、惟、つ、十、餘、日、が、た、り、思、ひ、ゆ、枉、て、當、寺、へ、河、津、島、を、
 へ、と、言、は、せ、り、公、義、昭、若、世、も、嬉、し、く、お、や、り、ゆ、さ、さ、信、長、と、深、く、情、を、奉、
 小、信、を、あ、せ、し、人、も、故、人、小、信、を、喜、む、し、さ、の、ま、ら、と、を、候、し、ま、り、も、孫、小、
 信、と、を、見、へ、小、信、を、思、ふ、に、信、長、不、破、の、内、中、村、井、長、の、ち、を、使、者、と、し、
 小、信、は、城、へ、さ、し、遣、し、先、日、影、若、河、津、島、の、機、會、を、ら、り、小、信、小、の、河、津、島、を、
 ち、と、方、を、ら、ぬ、馳、走、の、勢、態、勤、小、と、ま、り、後、附、さ、せ、次、小、信、は、列、へ、進、登、の、し、
 高、く、し、并、も、河、津、島、五、郡、の、守、護、法、井、那、小、信、の、城、を、法、井、備、前、と、名、
 改、め、その、緒、跡、を、尋、み、に、大、藏、冠、孫、是、公、の、後、胤、兩、院、の、方、大、臣、冬、嗣、公、の、苗、
 裔、と、奉、入、刑、官、公、細、々、六、代、の、孫、あり、其、の、人、皇、百、三、代、後、花園、院、の、河、津、島、實、

